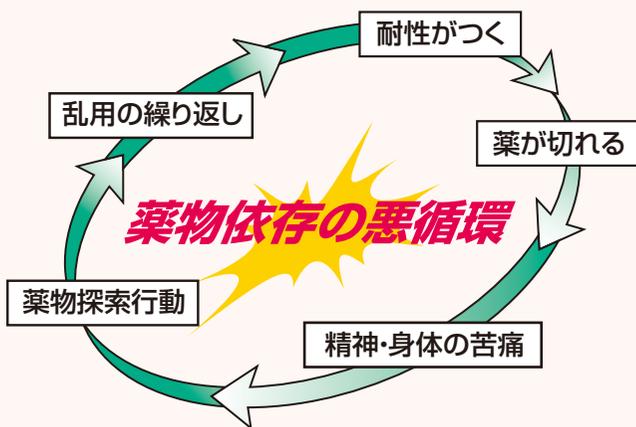


いったん薬物乱用を始めるとやめられなくなります。

乱用される危険のある薬物は脳に作用し“心”、つまり精神に影響を与える作用を持っています。中枢神経を興奮させたり、抑制したりして、幸福な気分や爽快感、お酒に酔ったような感じ、不安が消えていく感じを引き起こします。また、実際にはないものが見えたり聞こえたりします。

乱用される薬物の共通の特徴は、何度でもくり返して使いたくなる「依存」を引き起こす性質を持っていることです。乱用を繰り返す人は「快感を得るため」だけでなく、薬が切れた時に感じるイライラや不安、退薬症状として現れる身体的苦痛から逃れるために薬物を使わざるを得なくなります。こうして、薬物なしではいられない「薬物依存」の悪循環にはまってしまうのです。しかも、乱用薬物には、使用を繰り返しているうちに、それまでと同じ量では効かなくなる「耐性」という性質があります。

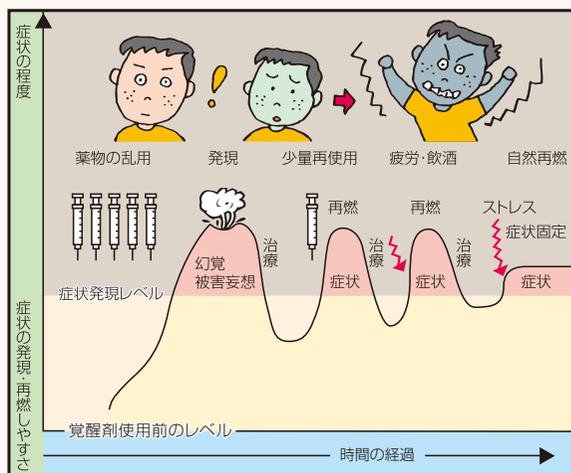
1回だけと思って使いはじめた人も、薬物の「依存」と「耐性」によって使用する量や回数がどんどん増えて、自分の意志ではやめることができなくなります。



治療して治ったようでも「フラッシュバック」が起こります。

薬物乱用による害は生涯続きます。薬物の乱用の結果、ひとたび幻覚、被害妄想などの精神病の症状が生じると、治療によって表面上では回復しているかに見えても、これらの症状が再発しやすい下地が残ってしまいます。乱用をやめ普通の生活に戻ったようでも、不眠やほんの小さなストレスがきっかけで、突然、幻覚・被害妄想などの症状が再燃することがあります。

これを「フラッシュバック(自然再燃)」現象と言い、覚醒剤でよくみられる症状です。



薬物精神病の症状の発現・再燃のイメージ